

令和6年度

浜松市立相生小学校 第2回 学校運営協議会

令和6年 9月10日(火)

授業参観 13:25～13:55

協議会 14:00～15:30

場 所：多目的室、各教室

次 第

〈 司会：村上、 記録：伊藤 〉

開会 開催要件（過半数の出席）確認

1 会長挨拶

2 校長挨拶

3 議長の選出

4 前回会議録確認

5 熟議 〈 議長： 〉

(1) 主体性を育むために必要な支援について

(2) その他喫緊の課題

6 報告 〈 司会：村上、 記録：伊藤 〉

・ 学校支援CDからの活動報告

7 連絡

・ 次回開催日時

・ 熟議内容

第2回 学校運営協議会出席者

学校運営協議会委員

会長	こすぎ しずよ 小杉 思主世
副会長	おおたに かずお 大谷 一雄
委員	ひろの あつお 廣野 篤男
委員	ながさわ ひでゆき 長澤 秀幸
委員	みずたに かずよ 水谷 加寿代
委員	すずき まいこ 鈴木 麻衣子（学校支援CD）
委員	はら たかゆき 原 隆之
委員	もりた けんじ 森田 賢児
委員	いとう だいすけ 伊藤 大輔
委員	なかがわ ゆか 中川 有香（学校支援CD）

オブザーバー

東部協働センター	神谷 匠
----------	------

学校

校長	小林 延和
教頭	鈴木 滋雄
主幹	鈴木 由香
C S 担当教職員	村上 友香
C S ディレクター	伊藤 龍彦

浜松市教育委員会

教育総務課	鈴木 陽子
-------	-------

令和6年度学校運営協議会 年間計画(案)

令和6年4月1日～令和7年3月31日

※ 委員の過半数の出席がないと開催できません。

※ 感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容 熟議のテーマ 等	備考
1	令和6年 5月10日 金曜日 13:20～15:30 多目的室	熟議テーマ (1)学校運営の基本方針について 説明 ⇒ 質疑・応答、熟議 (2)夢育やらまいか事業に対する意見書について (3)学校運営協議会の自己評価について	(授業公開) 13:25～13:55 各教室
2	令和6年 6月28日 金曜日 13:20～15:30 多目的室	熟議テーマ (1)主体性を育むために必要な支援について (2)その他喫緊の課題	(授業公開) 13:25～13:55 各教室
3	令和6年 11月7日 木曜日 13:20～15:30 多目的室	熟議テーマ (1)前期学校評価の結果より (2)地域人材活用についての現状報告 (3)主体性を育むための具体策について	(授業公開) 13:25～13:55 各教室 ★学校運営協議会の自己評価 表→学校への提出 11/21(木)までに
4	令和7年 2月14日 金曜日 9:00～12:00 多目的室	熟議テーマ (1)学校評価について (2)学校運営協議会の自己評価について (3)来年度学校運営の基本方針について	(授業公開) 9:00～ 「風の子・太陽の子応援団 まとめの会」 9:55～「感謝する会」

R6 相生スタンダード ～子供主体の授業を実現するために～

段階	一斉型の学習活動 ○子供の活動・指導上の留意点	段階	子供主体の授業の学習活動 ○子供の活動・指導上の留意点
準備	○学習の準備・筆箱をしまい、机を整える。 ○1分前着席・黙想をする。		
開始	○はじめの挨拶をする。		
導入	めあてをつかむ『課題の提示』 ○前時までのふり返りを行い、本時のめあて(課題)をつかむ。 ・できるだけ疑問形にする。 ★「子供が学び方を知る」ために・・・ ・どんな見方考え方を働かせるとよいか教える ・思考ツール、ICTの活用の仕方を教える ・何を話し合うのか、話し合いの目的や方法を教える ・学びを次につなげるための振り返りの視点を教える	課題の把握	『課題の提示(問題)』 ○提示された課題から、疑問点や課題の解決方法を考える。 ・疑問点や分からないことが、学習のめあてにつながるようにする。 ・課題(問題)⇒学習のめあての順で示す。 ・課題(問題)には、学習内容が内在するものを使う。 ※教科書の問題は、ほとんどが学習内容を含むものになっている。 『学習のめあて(評価)』 ○本時の学習の内容を具体的に知る。 ・課題の内容と各教科の見方・考え方が結び付いためあて(評価)を示す。子供が、めあての達成に向けて主体的に学べるように学び方の見通しをもたせる。
展開	①見通しをもつ 【ペアやグループ、全体】 『情報の収集』 ○めあてを追求していくための見通しをもつ。 ②自分の考えをもつ 【ひとり学び】 『整理・分析』 ○見通しをもとに、自分の考えをまとめる。 ③自分の考えを深める 【ペアやグループ、全体】 『整理・分析』 ○自分と友達の考えを比べ、多様な考え方ができることや考え方の共通点などに気づき、見方・考え方を深めたり概念的知識を獲得したりする。	課題解決の学び方考え方・概念的知識・技能の獲得	『情報の収集』 ○学習のめあてにそった知識や、考え方の情報を、多様な他者と協働しながら集める。 ○より多くの情報、より確かな情報の収集を行うために、各教科で身に付けた知識、技能や見方・考え方を発揮する。 『整理・分析』 ○どのような情報が、どの程度集まったかを把握する。 ○どのような方法で情報の整理・分析を行うのかを決定する。 ○多様な他者と協働し、異なる考え方から自分の考えを広げ、深める。 ・「比較して考える」「分類して考える」「序列化して考える」「関連付けて考える」などの思考との関係を意識して整理させる。 『まとめ』 ○各教科等で身に付けた表現方法を積極的に活用する。 ○相手意識や目的意識を明確にしてまとめる。 ○伝えるための具体的な方法を身に付け、内容を明らかにする。 ○情報を再構成し、自分自身の考えや新たな課題を自覚する。 「協働的な学び」～学び方の工夫～
終末	『まとめ』『ふりかえり』 ○自分の言葉で、めあてに対する学びや学び方をふり返る。		
終了	○終わりの挨拶をする。次の授業の準備をする。		

学び合い(知)

なりたい自分に向かって粘り強く学び合い、ともに成長する子

- ・考える力を身に付ける。
- ・友達と伝え合い、自分の考えを深めることができる。
- ・学ぶ意義を知る。

○授業でよく考えて学習している。 児童 88.4% 保護者 83.7% 教職員 91.3%

保護者の評価が、児童と職員の評価に比べて低い。「考えて学習する」ということの具体的なイメージが共有できていない可能性がある。「どのように考えるのか(考え方)」「どんな姿なのか」などを具体的に示した授業実践を行い、児童や保護者にとっても成果が実感できるように工夫したい。

○授業において友達と意見を伝え合い、自分の考えを深めることができている。

児童 82.3% 保護者 77.8% 教職員 91.3%

教職員と比べて、児童と保護者の評価が低い。相生スタンダードをもとに、授業で伝え合いの場を設定しているが、単なる意見を伝えることなく、分かりやすく伝えたり相手の意見を分かろうとして聴いたりして、「自分の考えをさらに良くする」「多様な考え方を知る」など、目指す伝え合いにするための工夫に課題があると考えられる。わかりやすい伝え方や聞き方などの指導をして、伝え合いの活動に取り組みたい。

○何のために学習しているかが分かっている。 児童 90.1%

教職員 90.9%

前期とほぼ変わらない評価となっている。引き続き本校の目指す4つの力(キャリア教育)を子供たちに伝え、学ぶ意義を伝えていきたい。

○子供は家庭学習に取り組んでいる。保護者 77.5%

保護者からの評価は、前期と比べて10ポイント以上向上している。家庭学習の出し方の工夫や学習方法の紹介、担任による価値付けなどの取り組みを継続したい。

認め合い(徳)

自他のよさを知り、認め合い高め合う子

- ・自分のよさを知り、友達のよさが分かる。
- ・自分で判断し、よいことを進んで行うことができる。
- ・よりよい学校学年学級にするために働くことができる。

○友達のよいところに気付くことができている。児童 89.7% 保護者 94.3% 教職員 100%

前期に比べ数値が向上している。活動や行事ごとによさを伝え合う機会を設定した成果と思われる。さらに教科学習においても友達のよさを認め合う場を位置づけていくことで、さらに数値が向上すると思われる。

○よいことと悪いことを判断し、行動することができている。

児童 81.6% 保護者 90.3% 教職員 91.3%

児童アンケートに「相生 11 か条をしっかりと守っている」という文言を付記した。児童がより具体的に生活場面を自己評価したことで、児童の数値が低下したと思われる。善悪は理解していても、周囲に流されたり、失敗を繰り返してしまったりするなど、自分の意志で行動できない弱さが見られる。規範意識を高めていくため、「相生 11 か条」を意識させながら繰り返し指導に当たっていく。

○いつでもだれに対しても挨拶をすることができている。

児童 85.5% 保護者 77.5% 教職員 77.3%

後期始めより、生活のめあてや挨拶運動で指導を強化したため、教職員は前期に比べ 18% 向上した。一方で児童 4.5%、保護者 7.5% と低下していることから、挨拶しようとする児童の意識は高まっていないと思われる。学校内はもとより家庭や地域などでも挨拶が日常化されるよう、粘り強く声掛け、称揚を継続していく必要がある。

○よりよい学級・学年・学校にするために進んで働くことができている。

児童 90.3% 保護者 87.2% 教職員 86.9%

児童、保護者は数値が向上した。係や委員会活動を核に任された仕事に真面目に取り組む子多い。しかし、自分で考えて働く姿を目指したいという思いから、教職員の評価は低下していると思われる。児童が話し合って自治的な活動を展開できるよう環境を整えていく必要がある。

心身ともに健康で、鍛え合い、あきらめずに挑戦し続ける子

- ・体を動かす楽しさを味わい、進んで運動する。
- ・命を大切にし、自己管理ができる。

○体を動かすことが楽しく、学校で進んで運動している。

児童 84.4% 保護者 81.3% 教職員 90.9%

今年度の設問には「学校で」という文言を入れた。保護者については、昨年度より4%以上向上している。児童、教職員は約3%低下しているが、概ねよい結果と言える。ただ、以下の2つ項目の結果よりも保護者の数値が低いということは、運動に対しての思いや期待をもって
いる人が多いことが感じられる。

○健康に気を付けて生活している。

児童 90.9% 保護者 91.2% 教職員 91.3%

今年度の設問には、「清潔な生活、すこやかチェック、給食など」と具体的に文言を入れたため、回答者には場面を想像しやすくなっている。ただ、主の文言が「健康に気を付けている」という内容のため、「感染症対策でマスクをしているから健康に気を付けている」という漠然とした捉えである可能性もある。従って、3者ともよい結果であるものの、この結果だけでは判断できない部分もある。

○周りをよく見て安全に生活することができている。

児童 87.3% 保護者 91.6% 教職員 73.9%

今年度の設問には、「登下校や廊下歩行、教室での過ごし方、遊び方など」と具体的に文言を入れたため、回答者は場面を想像しやすくなっている。児童、保護者ともに昨年度並みの結果だが、教職員は20%も低下している。具体的な場面想定をしたことで課題意識を明確にもったと言える。

キャリア教育

自分の夢や目標をもち、夢や目標の実現に向けて努力することができる。

- ・ 温かくかかわる力
- ・ 自分を高める力
- ・ あきらめずに挑戦する力
- ・ 夢をもちつなげる力

○相手の話をよく聞き、友達と協力して行動している【温】

児童 89.4% 保護者 92.3% 教職員 95.6%

○自分のよさに気づき、自信をもつことができている【高】

児童 79.5% 保護者 81.1% 教職員 91.3%

○失敗をおそれず自分の考えた方法で繰り返し挑戦している【挑】

児童 81.4% 保護者 74.7% 教職員 82.6%

○夢や目標に向かって努力したり、意欲をもって学んだりすることができる【夢】

児童 83.8% 保護者 80% 教職員 91.3%

キャリア教育の4つの力が児童、保護者ともに浸透してきている。よって、学習や活動での具体的な場面を想像して回答することができていると思われる。

昨年度課題となっていた【高】【挑】については、今回数値がよくなってきている。引き続きキャリア教育の年間計画を確実に遂行し、日々の授業、活動での一人一人への価値付けを行っていくことが大切だと考える。また、身近な大人であるCSボランティアさんとの関わりでキャリアの力がより高められると考える。